



2019年新たに開設した「聖隷トライサポート和合」の若手職員と。リハビリ専門職を厚く配置し、医療的リハビリテーションの後方施設として、介護・福祉の視点に立った継続的なケアを提供。



聖隷こども園めぐみの園庭にて5歳児クラスの園児と。

質の高いサービスを、
ゆるぎない理念と共に



創立90周年を迎えて

SEIREI 90th

PRESIDENT:
Toshihiro Yamamoto

聖隷福祉事業団
理事長
山本敏博

1968年聖隷浜松病院入職。同病院事務長、理事、常務理事を経て、1990年法人本部事務局長、2000年から理事長。

聖隷の存在意義を再確認し、100周年に向けて

1930年、数名の若者たちが行き場のない結核患者を受け入れ、看病を始めたのが聖隷福祉事業団(以下、聖隷)の創立です。それから90年、重大な経営危機や幾多の困難、新たな挑戦を経て、また多くの方々のご支援や先人たちの努力により今日の聖隷が形成されてきました。今を生きる私たちは、ここに至るまでに様々な物語があったことを忘れてはいけません。創立から脈々と引き継がれてきた隣人愛の精神を基盤として、聖隷が地域にどのような貢献をしてきたのか、そして何のために聖隷は存在するべきか。創立90周年の節目にあたり、私は聖隷の存在意義を再確認し、職員と共に分かち合いたいと思います。

それと同時に、職員の献身的な努力を称賛したいと思います。地域に貢献したい、患者や利用者によりよい医療や介護を提供したいという思いと、それを達成するための工夫や勉強を重ね、目の前の

お一人おひとりの利用者のために職員各自が努力してきました。このような職員に聖隷の事業が支えられてきたことを私は誇りに思います。

地域共生社会の実現に向け、社会福祉法人の役割を果たす

聖隷は、大規模・広域の社会福祉法人に成長しました。それは同時に、大きな責任を担っているとも言えます。少子高齢化の進展など、日本は周辺アジア諸国の将来の姿を先取りすることになり、「課題先進国」と呼ばれています。聖隷は、その課題先進国の社会保障の最前線を支える役割を担っていることになり、日常業務の一つひとつの工夫が世界の最先端の取り組みになると言えます。未来に大きな責任があるからこそ、今後の社会の変化に対して対症療法ではなく、先を見越した意味のある仕事ができる組織でありたいと考えています。来る創立100周年に向けて聖隷が目指すべき将来像の一つとして「地域共生社会の

実現」があります。子どもから高齢者、障がいのある人、外国人などお互いに支え合って、同じ地域で住み続けられる社会を創っていくというもので、聖隷は社会福祉法人として地域共生社会の実現に積極的に取り組み、社会的な課題解決に向けて支援をしていきます。

私たちの取り組みが、日本をより良くすると信じて

職員の皆さんに伝えたいことがあります。それは、ひとりの人間として自分はどうな仕事をしたのか、どんな人間になりたいのかを常に考え、自分はどう思うということを積極的に周囲に発言し、行動に移す、有言実行を心がけてください。聖隷は職員の真剣な言葉に耳を傾け、やらないよりもやってみることを選択できる組織ですし、これからもそうあり続けたいと願っています。やるからには責任が伴いますが、責任のある仕事を成し遂げることは、人としての成長にもつながります。

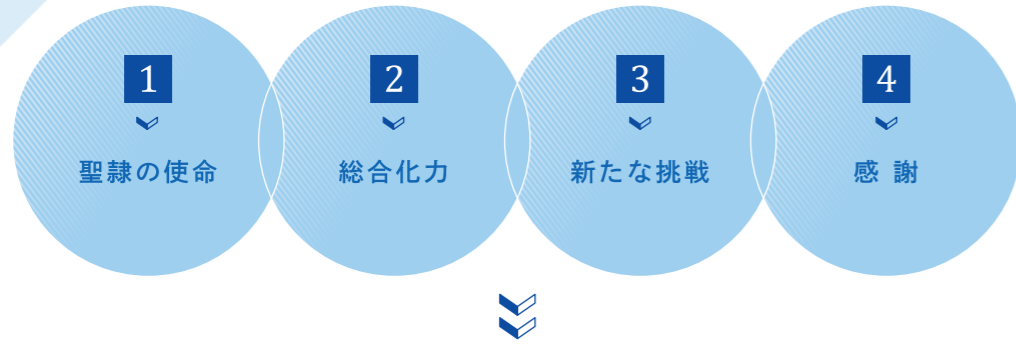
まずは目の前の患者・利用者お一人おひとりに質の高いサービスを提供し、聖隷があつてよかった、聖隷のサービスが地域で最も良い、そう評価していただけるように職員が一丸となって未来に向けた様々な挑戦をし、努力していきましよう。その取り組みが、日本や世界をより良くすることにつながると信じています。

撮影場所/和合せいれの里

高齢者、障がい者、子ども、全世代の方が利用できる共生型福祉施設。地域共生社会の実現を目指し、様々なニーズに沿ったサービスの提供をしていく。

創立90周年記念事業を通じて聖隷福祉事業団の存在意義の再確認をするために、4つのテーマを掲げ、展開していきます。

聖隷福祉事業団の存在意義の再確認



存在意義の4つの再確認

1 聖隷福祉事業団の使命の再確認

聖隷福祉事業団の基本理念「隣人愛」を体現した5つの使命と職員行動指針。今までの発展を支えた使命と職員行動指針が今後もゆるぎないものであることを共有していきます。

職員行動指針

- わたしたちは、ひとりひとりの命と尊厳を守ります
- わたしたちは、サービスを求めるすべての人々に、誠実かつ献身的に仕え、その自立を支援します
- わたしたちは、「保健・医療・福祉・介護」サービスを通して社会に貢献し、地域の人々との強い絆を育みます
- わたしたちは、先駆的・開拓的精神で、新たなニーズの発見に努め、常に課題に挑戦します
- わたしたちは、ひとりひとりが専門職としての倫理と誇りを持ち、最高の技術を提供します

2 総合化力の再確認

保健・医療・福祉・介護サービスを大規模かつ総合的に提供できる事業体は多くはありません。様々な事業を総合的に展開する力（「総合化力」）によって一人の人生を生から保育、健診、疾病、介護や終末期ケアなど、様々な場面で支えるとともに、地域の発展・維持にも貢献ができました。また、幅広い事業領域を持つことは、人材育成、経営の安定化という点でも大きな力になっています。職員にとってもキャリア形成や安心して働ける環境を実感し、聖隷福祉事業団で働く意義を再確認します。

3 新たな挑戦

聖隷福祉事業団は将来に向けても責任を果たしていく集団であり続けます。社会福祉法人として「地域における公益的な活動」に取り組むと共に、「地域共生社会」をキーワードに「聖隷が地域をより良くしていく」という思いを共有します。10年前と比べて職場には障がいを持った方や高齢者、外国出身の方が増えたことは喜ばしいことです。

4 感謝



Goals…持続可能な開発目標（など）未来に向けた組織作りには挑戦していきます。

女性の経営職も増えました。10年後は利用者も、働く職員もさらに多様な背景、多様な考え方を持つ地域社会や職場になっているでしょう。創立90周年の機会に「グローバル化」「ダイバーシティ」をより強く意識し、「SDGs」(Sustainable Development Goals)…持続可能な開発目標（など）未来に向けた組織作りには挑戦していきます。

利用者やそのご家族、医師会や近隣病院・施設、そして協力いただいている企業様など多くの方のご支援で創立90周年を迎えることができました。同時に、現在の聖隷福祉事業団の発展は職員の努力なしでは語れません。果敢な挑戦と真摯な努力を積み重ねてきた職員に心から敬意を表します。支えていただいたすべての方々へ感謝し、謙虚な気持ちで次の創立100周年に向かって歩みだします。

【ロゴマーク】



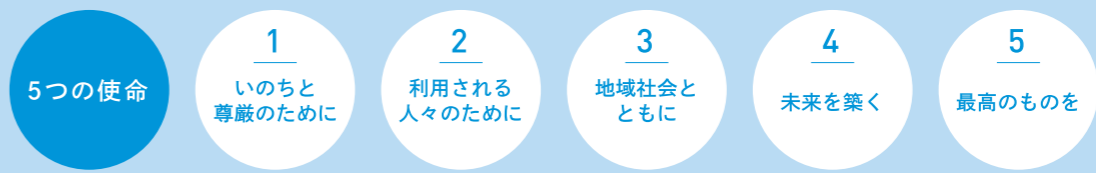
SEIREI 90th

聖隷福祉事業団 創立90周年記念事業

ロゴマークに込めた思い

聖隷福祉事業団の隣人愛の精神の表れである5つの使命と、職員行動指針で地域のセーフティネットを聖隷福祉事業団が支えていく姿を表現しました。

また、色は青空をイメージして2つの思いを込めました。ひとつは沖縄・奄美の空から佐倉の空まで、一つの空でつながる聖隷福祉事業団が一体となって社会を支えていくこと。もうひとつは、同じ青空でも見方によって様々な色に見えることから、聖隷職員は今まで以上に多様な視点を持ち、また、多様な考え方があることを受容していく。このような思いをもってロゴマークを選定しました。



存在意義の再確認を

1930年(昭和5年)、聖隷福祉事業団の事業は結核に苦しむ貧しい人々のお世話を原点にはじまりました。その後、時代や地域の要請に応え、保健・医療・福祉・介護サービスの4つの領域を総合的に提供する社会福祉法人へと成長してきました。

反対運動により移転を余儀なくされたり、結核患者の食べ残しを煮なおして食べたりといった草創期はもちろんです。有料老人ホームやホスピス、総合周産期母子医療センターのいち早い設置、1980年代の重大な経営危機を乗り越えたことなど幾多の困難や新たな挑戦を経て、また多くの方々のご支援と先人たちの努力により今日の聖隷福祉事業団の礎を築いてきました。先人たちが築いたブランドに甘んじることなく、安全で質の高いサービスの提供と優秀な医療福祉人材を輩出する「人づくり組織」を目指します。

創立90周年の節目にあたり、5つの使命と職員行動指針を確認するとともに、社会福祉法人として益々の貢献を求められていく中、聖隷の存在意義の再確認を行い、次の創立100周年に向けて新たな歩みをはじめめる契機とします。